



1ヶ月に1回発行。弘前大学生協の活動をお知らせいたします。

弘前大学生協同組合のホームページは、「弘前大学生協」で検索！

Vol.119

弘前大学への 奨学金寄附について



生協内では以前より、独自に何らかの奨学制度を実現できないかとの議論がされていました。今回、弘前大学への寄附を通じて奨学金制度を実現するにあたり、300万円を寄附することを理事会（2019年12月）にて決定したものです。

制度の運用開始は2020年度秋以降の予定をしており、具体化にむけては大学と協議を進めているところです。詳細が決定次第、あらためてご報告させていただきます。

（以下、理事長 山田の挨拶文を全文。）

昨今、高等教育の無償化ということが政治の場面でよく話題にのぼります。たしかに家庭の「貧富の差」によって大学で学ぶことができない人がいるというのは望ましいことではありません。しかし裕福でさえあれば「誰でも」大学に行けるというのも、かならずしも健全なあり方ではないような気がします。

奨学金のあり方、あるいは高等教育の無償化を云々するからには、そもそも「大学とはどのような場であるのか」について、しっかりと考えておくべきだともおられます。

『広辞苑』によれば、大学とは「学術の研究および教育の最高機関」であります。大学で学ぶという機会は、万人に等しく開かれているべきではありますが、それと同時にいわゆる「最高学府」としての大学のあり方もまた保証されてあるべきであるとおもわれます。

弘前大学は建学の理念として、こう掲げております。「弘前大学は、教育基本法 の精神にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者の育成をもって目的とする」。

弘前大学生協はこの弘前大学の掲げる理念に深く共鳴いたします。弘前大学という最も程度の高い教育が受けられる場があるからには、それにふさわしい人物であれば「貧富の差なく」そこにおいて学ぶことができる、そういう世の中であってほしいとおもいます。

弘前大学生協は、弘前大学の教育の営みを、傍らからではあれ支援すべく、この奨学金をこれからも継続的に実施してゆきたいと考えております。

AO合格生 WelcomeParty2020

開催日：2月14日(金)・16日(日) 18:00~20:00

開催場所：大学会館2階 Scorum

参加人数：14日23名・16日29名 計52名

「新たな友人を作ること、大学生活への不安を解消すること。」を目的とし開催しました。参加者にはまず学部や学科で分けた班に入ってもらい、その班でクイズ大会や交流を深めます。参加した新入生のみなさんは初対面の人が多いこともあり緊張した様子でしたが、会の中盤からはクイズ大会や班内での交流を深めていったことで、参加者達から緊張が薄れ、楽しそうな会話が会場から溢れていました。

会終了後は先輩学生から授業開始までの期間の使い方などのアドバイスを受けるといった姿も見られ、AO合格生ならではの会話もみられました。

生協学生委員会 理工学部2年 千田海聖

【参加者の声】

「大変有意義だった。」「楽しめたし、たくさんを知ることができた。」「同じ学部の人と話せる機会を作って頂きありがとうございました。」



佐藤敬学長からの挨拶



議決事項



第1号議案 嘱託職員の採用について

第2号議案 正規職員の人事異動について

第3号議案 2020年度店舗方針ならびに予算計画について

〈当日追加議案〉 第9号議案 期末特別手当の支給について

第1号～第3号、第9号議案については、全会一致で可決承認されました。

審議事項

第4号議案 2020年度重点課題について

2020年度の組織と事業の課題を設定し、取り組むことの提案があり審議しました。

この議案については、SDGsへの理解を深めることが必要な議論ではないか、以前サリジェに設置されていた寄附になるデポジット容器回収BOXは設置しないのか、という意見がありました。この議案については、いただいた意見を踏まえて進めていくこととしました。

第5号議案 Cloverでのセルフレジ実験の延長について

現在行なっているCloverでのセルフレジの実験を2020年度も継続して実施し、全店への導入に向けてデータ収集することの提案があり審議しました。この議案については、提案の通り2020年度も継続して実施することとしました。

第6号議案 Scorumの営業形態変更実験の実施について

1月より「焼」メニューに絞り込んだメニュー展開を実験として実施した結果、利用状況が良好だったことと、組合員の反応も好意的だったことから4月も継続して実施することの提案があり審議しました。この議案については、提案の通り4月も継続して実施することとしました。

第7号議案 総代会での組合員活動の時間について

前回理事会にていただいた意見を踏まえ、総代会での進め方について提案があり審議しました。SDGsを知らない学生が多いから、イラストや事前資料で伝えられないか、自分たちにできることや生協でできることを考えてもらうのも難しいのではないかという意見がありました。この議案については、いただいた意見を踏まえ、再度進め方を検討することとしました。

第8号議案 2019年度決算方針について

1月を終えての2019年度決算見込みが若干変更になったため、再度決算方針について提案があり審議しました。この議案については、質問・意見等がある場合には、専務理事にメールにて連絡することとしました。なお、決算処理の最終金額確定は、前回理事会にて3月常務理事会に一任することを承認されています。

詳しくは弘大生協ホームページ・理事会の議事録・発言録をご覧ください。

新酒を味わう会を開催しました。

開催日：2月4日(火) 18:00～20:00

開催場所：学生会館2階Scorum

参加人数：大学関係者25名 生協関係者29名 計54名

今年の新酒を味わう会もたくさんの大学関係者にご出席いただき、大変盛り上がる会となりました。新酒 弘前大学で乾杯をし「今年の日本酒はキリッとしていますね。」という会話がきこえてきました。また、今回は弘大生が考案した「りんご豚丼」も登場しました。

恒例となった余興のクイズ大会では、りんご豚丼や弘前大学の歴史に関するクイズを出題し、「弘前に住んでいてもまだまだ知らないことはたくさんあるな」と話している方もおりました。大学関係者、生協関係者が集まる貴重な機会ですので、今後の弘前大学の動きに関することや弘大生協のことについて意見を交換したり、相談をしたり、過去の話の思い出したり、自らの健康の話をしたりすることができ、有意義な時間となりました。



日本酒「弘前大学」の供給の5%を弘前大学基金(弘前大学修学支援基金)として寄付しています。今年度12月時点では、1,002本の販売があり、104,756円を寄付することを報告しました。実際の寄付額は、2020年3月までの販売本数になりますので、今回の報告額に2020年1～3月の販売実績を加算して、大学に寄付することになります。

前期保護者さまへの説明会を開催しました



新型コロナウイルス感染症対策のため受付に消毒液を置きました。

受験生の不安を少しでも解消してもらい、リラックスして受験してもらいたいという思いで主に学生委員会が活動しています。



がんばれ受験生!



2月24日

弘前 69家族99名

2月25日

札幌 168家族200名 / 八戸 69家族80名

弘前午前 177家族204名

弘前午後 59家族68名(対象：医学科)

計 542家族651名



説明会終了後はサポートセンターで住まいの物件や教材の展示や個別相談など対応しました。



新型コロナウイルスの影響でマスク姿の来場者が多く感じました。例年通り、住まいに関する質問が多かったこと、今年から採用したPCタブレットの実演を見て興味をもち、説明を聞いてくる方がたくさんいました。受験生やその家族の不安に寄り添いサポートできるよう心がけていきます。

学生応援企画「100円朝食」(1/27~2/7)



今回のメニューはできる限り青森県の郷土料理と青森県の食材を使用した「青森サーモン塩焼き定食」「りんご豚焼肉定食」「弘前名物いがめんち定食」「牛バラ定食」「津軽名物けの汁定食」の5種類を日替わりで提供しました。全ての定食に萩原乳業(株)様のご協賛により青森県産萩原牛乳が1本付きます。イチオシは「青森サーモン」(弘前大学地域戦略研究所が養殖研究に関わっています)です。

連日オープンの8:00前には行列ができ、20分程度で150食が完売となる人気ぶりでした。



初日には動画(日本サーモンファーム株式会社)も流し、生産者の顔や風景をみることで、品質や安全への信頼を感じることができます。

100円朝食を通して、弘前大学の学生に、①正しい食生活を習慣づけてほしい。②青森県産の食べ物を知り、食べてほしい。③朝食を摂って元気に試験に臨んでほしい。という願いから弘前大学の企画に弘前大学生協が協力しています。

学生総合共済からのお知らせ

2月の給付状況

病気入院	1件
病気手術	1件
事故入院	2件
事故手術	3件
事故通院・固定具使用	13件
こころの早期対応	2件
父母扶養者死亡	2件
計	24件

給付金額

1,382,000円

たすけあいアンケートより

「突然の入院びっくりしましたが、手続きも早く生協の共済に入っていてよかったです。」
 (医学部3年 実習中に突然の腹痛におきわれた。大腸憩室炎 入院2日 共済金20,000円)



青森大空襲の話聴く会

弘前大学生協理事会小委員会(社会)企画



開催日：1月22日(水) 15:00~16:30

開催場所：大学会館2階Scorum

参加人数：22名(学生13名・一般2名・生協職員7名)

講師：今村 修さん(青森空襲を記録する会 会長)

印象的だったのは、青森空襲が「予告された空襲」だったということです。前日に米軍がチラシをまき「明日空襲をする」ということを告知していたという中で、「空襲を受けた際に人手がないと火消ができない」という考えなどから発令されていた「防空法」という法律を市が守り、疎開していた市民を空襲前に呼び戻したため、犠牲者が拡大したという内容に心が痛みました。

知ることで初めて、考えることができ、考えることで今後同じことを起こさないと思うことが出来ます。弘大生協では今後もこのような会を持ち、「社会を知る」機会を増やしていこうと考えています。

弘前大学生協SHAREA店 芹田美穂子

今村さんは、「空襲のことだけを知っても意味がない。そこに至るまでの約50年の間に、おきた戦争がなぜ起きたのか、どんな影響があって、第2次世界大戦が起きたのか、という一連を知っていくことが大切だ、とお話をされていました。

編集後記

1月21日にRABわっち!!ニュース内放送「りんご豚丼」の取材の様子(写真上)です。インターンで考案した「りんご豚丼」が市内2店で提供されることになりました。弘前大学、学生への取組にサポートが出来たことはもちろん、学生主体の取組が地域の方へこうして広がっていきとても嬉しく思います。

「新入生サポートセンター2020」でも学生が活躍しています。(写真下)AO・編入合格者(2/12~17・2/22~23)の期間では193家族にご来場いただき、大学生生活アドバイザーとして学生生活での経験を伝えています。自分の思いを伝えること、形にすること、簡単ではないですがそれをサポートできる生協でありたいと思います。

(SHIMO)

